

適正施設ガイドライン

【オウギバト *Goura victoria*】

2020年9月

公益社団法人日本動物園水族館協会

種の概況

・ 分類・形態

オウギバトはハト目ハト科カンムリバト属に分類される。全長 66cm、体重 2.5kg 程度で、ハト目では最も大きい。全身が濃い灰青色で、頭部に扇状の冠羽があり、先端は白い飾り羽がある。前胸部は赤紫色で、尾の先端は明るい青色である。

・ 生息域、気候

インドネシア（パプア州北部、ビアク島、ヤペン島）、パプアニューギニア（ニューギニア島）に生息し、気候は熱帯雨林気候または熱帯モンスーン気候で 1 年を通して多雨である。熱帯モンスーン気候の地域では弱い乾季もある。

・ 生態

標高 600m 以下の湿地林を含む低地林に生息し、主に林床で生活する。2～10 羽の集団で地上生活をし、樹上で休息をとる。餌は果物や種子。

・ 繁殖

繁殖は樹上に木の枝や葉、茎等を組み合わせた皿状の巣を作り 1 回に 1 個の卵を産む。雌雄とも抱卵し、抱卵期間は 30 日程。雛は 4 週間程で巣立つ。

・ 保護、規制状況

狩猟による圧力がこの種の急速な減少の脅威になると考えられなくなったため、2013 年に IUCN のレッドリストでは VU（危急種）から NT（近危急種）に指定された。しかし、低地生息地のアブラヤシ農園の開発と伐採の影響でゆるやかな減少は継続していると疑われる。

1 飼育環境

1-1 温度

冬季は気温が 10℃を下回る場合は屋内飼育を行う。屋内使用施設を有しない場合、風除け・ホットスポットの設置等を行い、部分的に 15℃以上になる場所を設ける必要がある。屋内飼育の場合、空調等により 20℃～30℃で管理を行い、自然光の取り込み及び換気を可能とする窓等を備えることが望ましい。

1-2 湿度

湿度 80%を超えるとアスペルギルス症への感染リスクが増加することから換気や空調を用い湿度の調整を行う。また、冬季の屋外施設では、風除けやホットスポットの使用により、屋内施設では空調の使用により湿度が低くなりすぎることもあるため、その場合、湿度 60～70%程度に湿度調節を行うことが望ましい。

1-3 音・振動

普段は音に対してはそれほど敏感ではないが、繁殖期・抱卵期などは他種及び人工的な騒音・振動などに影響を受けないようにする。

1-4 飼育面積・容積

オウギバトの飼育方法に関しては、屋外ケージ型鳥舎、屋内型鳥舎、ウォークスルー型バードゲージ、ウォークスルー型屋内施設など多様であるが、地面の利用が多いことと樹上での営巣を行うため、ペア飼育において底面積 8 m²、高さ 2.5m 以上の広さを確保することが望ましく、頭数増加に伴い底面積を増加する。底面積が確保できない場合は止まり木の数や高さを工夫し、立体的にスペースを使うことができるようにすることで飼育が可能と考える。これまで 4m×2m×2m 程度の鳥舎で繁殖例がある。また、隔離時などの個別管理に関しては 1 頭当たり底面積 6 m²、高さ 2m 以上の施設で飼育すべきである。

1-5 施設構造・設備

1) 感染症防止

屋外ケージ型鳥舎に関しては、鳥インフルエンザ等感染症防止の観点からスズメ等の侵入を防止できる幅のメッシュケージが適当であるが、侵入が可能な場合は防鳥ネットを設置する。壁や屋根などの構造物は消毒可能な材質を用いることが望ましい。屋根は野鳥の糞等が入らないようケージの上部をすべて覆うように設置をするのが望ましい、その場合、自然光を完全に遮ることがないよう一部透明な材質等を用いる。ウォークスルー型バードケージで防鳥ネット及び屋根の設置が困難な場合、鳥インフルエンザの国内の状況に応じて屋内または上記対策を行った屋外施設に避難収容できるようにしておくべきである。

2) 日除け

屋外施設は、屋根・樹木またはそれに代わる構造物を設置することにより、日除けできる場所を設けるようにする。

3) 自然光

屋内施設においては自然光の取り込みができる窓等の設置を行う。

4) 寒冷対策

冬季の屋外施設には風除け、ホットスポットの設置を行い温度管理を十分に行う必要がある。

5) 床・パドック

本種は大型であり、止まり木も利用するが、地上での行動時間も多いため、趾瘤症防止の観点から、屋外パドックの地面は砂、土を用いるのが好ましい。その場合も表面が固くフラットにならないよう定期的な砂起こし、砂替えを行うことが望ましい。落ち葉をひくことも効果がある。屋内でも砂・土が望ましい。床がコンクリートの場合でも凹凸をつくる、一部砂や土の場所を設けることが望ましい。

6) 止まり木

止まり木は、つかむことができる大きさで、滑りにくいものを選択する。複数種・複数頭数で飼育をする場合は、止まり木の数、高さも数パターン設置する。

7) 水場

水場は、飲水、水浴びに利用するため、深すぎず、オーバーフローできる構造のものが望ましい。そうでない場合は定期的に水替えを行う。

8) 自然木

施設内での自然木の植栽は、日除け、繁殖期における営巣行動の促進等好影響がある。繁殖期には適当な枝葉を置くことにより営巣行動を促進させる。

9) 巣皿

巣皿に関しては、巣材の枝葉の腐敗を防ぐために、ザル状のものやトリカルネット等水切れの良い素材で作成されたものを止まり木の上部に設置を行う。